

先端歯学国際教育研究ネットワーク主催第18回先端歯学スクール2023に参加して

令和5年8月25～26日（金・土）に徳島大学で開催された先端歯学スクール2023に医歯学総合研究科 博士課程（歯系）4年生の Haider Md Yasin さん（所属：歯科機能形態学分野，口腔顎顔面外科学分野）が参加し，研究発表を行いました．発表課題名は「哺乳類の原始的なモデル動物を使った，小白歯と大白歯の形態形成の違いと咬頭の相同性に関する研究」でした．Haider さんはこれまで，小白歯は大白歯の単純化された形態をとり，両者の咬頭の間には相同性があるとする premolar analogy theory という説を検証するため，トガリネズミ科の実験動物スunksを用いて，歯冠形態形成と咬頭位置の制御に関わるエナメル結節の出現順序と位置関係を調べてきました．先端歯学スクール2023では，小白歯の形態形成を遠心側に重複すると大白歯が形成され，小白歯の頬側咬頭は大白歯の近心頬側咬頭（paracone）と相同であることを示唆する結果を報告しました．

本年度の先端歯学スクールでは，12大学から選抜された大学院生によるレベルの高い研究発表が行われ，活発な質疑応答が繰り広げられました．また，特別講演として，テキサス大学の岩田淳一教授によるご講演がありました．Haider さんは「日本全国から集まった大学院生や貴重な研究成果をもつ素晴らしい研究者と交流できたことは本当に貴重な経験だった．様々なバックグラウンドを持つ科学者たちが研究について熱心に議論し，洞察を共有するという理想的な状況であった．さらに，テキサス大学の岩田晃一教授による特別講演は実に刺激的であり，若い研究者に貴重なアドバイスを与えてくれた．科学が持つ変革の力，そして，優秀な頭脳が共通の目標に向かって団結したときに生まれる素晴らしい可能性について，信念を強くした．今後もこのようなセミナーに参加し，科学的発見のエキサイティングな旅に貢献したいと思います．」という感想を述べられました．歯学研究に携わる若い研究者が育成されてきた先端歯学スクールが今後も継続して開催されることを祈念いたします．

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔微生物学分野 中田匡宣

